

I 道徳教育推進拠点地域事業における研究について

学校教育目標

夢と高い志を抱き、自ら学び、
心豊かに、たくましく生きる児童の育成

◎めざす児童像

- 課題を発見し、解決する子ども
- 伝え合い、認め合い、協力し合う子ども
- 意欲をもって、行動する子ども
- 自分を、ふりかえり、生かす子ども

1 研究の概要

本研究では、道徳科を要とした各教科等を通じた道徳教育を推進するために、小学校と中学校が連携し、学校や地域社会等の実態や課題に応じた共通の重点項目を設定し道徳教育の実質的な充実を図る。

学校全体で行う道徳教育の効果を最大限図るために、道徳科の授業においては、道徳推進リーダーがＴＴで指導し、「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて、教師の指導力向上と教材研究の推進を図るとともに、多面的・多角的な視点からの評価につなげる取組を行う。

2 研究のねらい

本地域の課題として、限られた人間関係の中で育つ中、視野が狭くなって自分に自信をもてないことや粘り強くやりぬくこと、自分の考えや意見を相手に伝えることや自分と異なる意見や立場に寛容であることなどに課題がある。また、自分がどのように社会と関わり、将来どのような未来を切り開いていくかという視点を持つことにおいても課題がある。

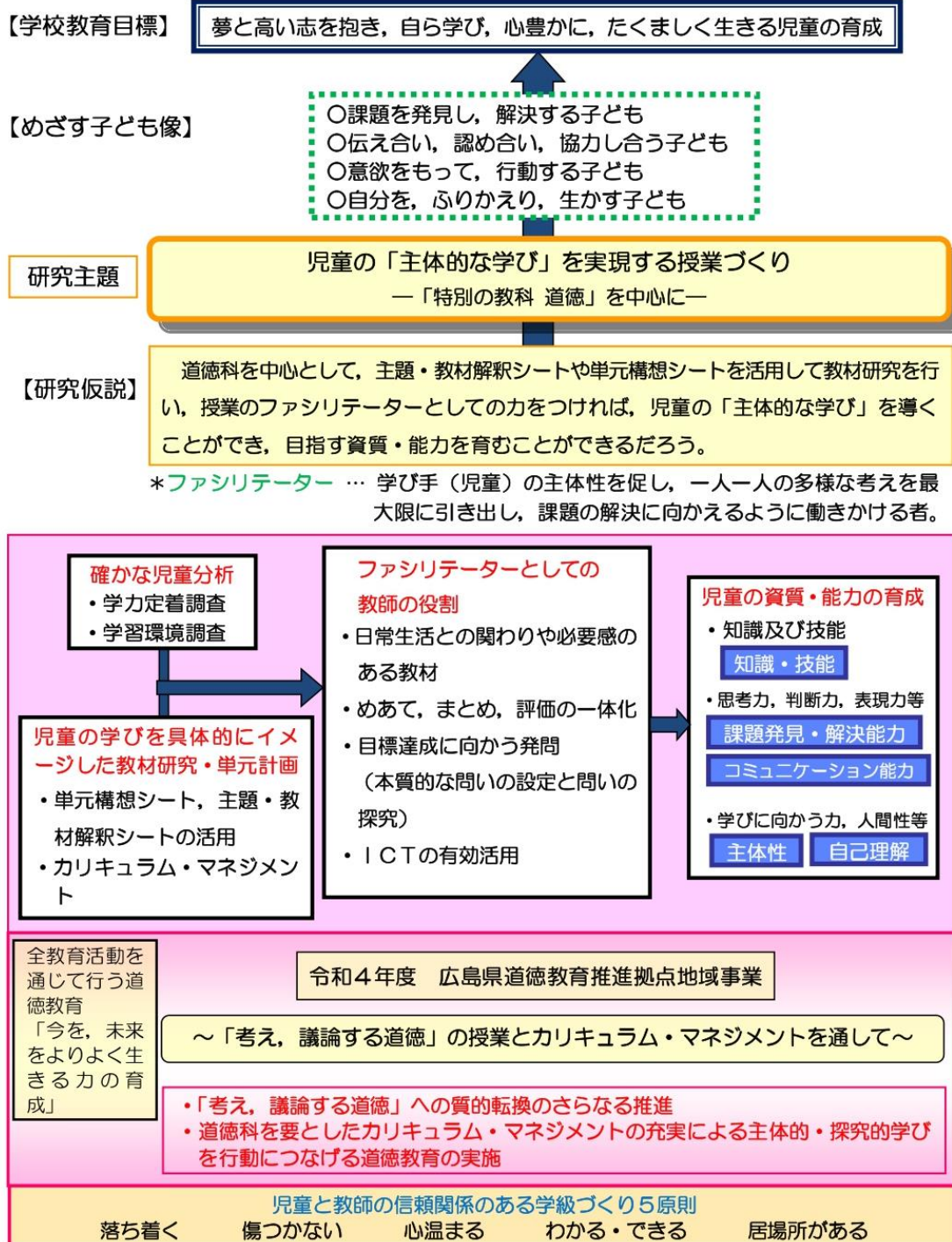
こうした中、道徳科を要とした道徳教育を通して、一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方について考えを深め、日常生活において道徳的価値を実現するような力を育成していく。

道徳科の授業を改善するために、「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けて研究授業や理論研修を行い、小中学校９年間を通して、効果的な授業になるよう協議を重ねながら研究をしていく。

また、道徳科の授業が道徳教育の補充、深化、統合となるようにカリキュラム・マネジメントの視点から、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画等を見直す。



Ⅱ 研究構想図



Ⅲ 主な研究内容

- 1 「考え、議論する道徳」への質的転換
 - ① 主体的な学びを促す導入・展開・終末のあり方
 - ② 深い学びへつながる教材研究と、ねらいの明確化
 - ③ ねらいに迫る発問・指導方法の工夫（ＩＣＴの活用も含む）
- 2 道徳科を要としたカリキュラム・マネジメントの充実による学びを行動につなげる道徳教育の実施
 - ① 小中学校が共通の重点内容項目を設定し、他教科、領域との関連を図った年間指導計画の作成及び道徳教育の展開(別葉の活用)
 - ② 保護者や地域の人材、学識経験者等のGTの招聘
- 3 研究の検証

期間：事業開始時と終了時
対象：児童，生徒，教師
方法：意識調査（アンケート），道徳ノート(ワークシート)の分析，
行動観察 等

- 4 児童・生徒の実態及び重点内容項目
令和2年度末に行ったアンケート調査から明らかになった児童・生徒の実態は以下の通りである。

須波小学校，第四中学校 児童・生徒の課題
○粘り強くやり抜くこと
○自分と異なる意見や立場に寛容であること
○自分に自信をもつこと
(令和2年度 内容項目別アンケートより)

重点内容項目の設定（3点）

- A 主として自分自身に関すること
希望と勇気，努力と強い意志（中学校：希望と勇気，克己と強い意志）
B 主として人との関わりに関すること
相互理解，寛容
C 主として集団や社会との関わりに関すること
勤労，公共の精神（中学校：社会参画，公共の精神）

- 5 研究主題設定

今を，未来をよりよく生きる力の育成
～「考え、議論する道徳」の授業と，カリキュラム・マネジメントを通して～

1 「考え、議論する道徳」の授業を目指して

(1) 主題・教材解釈シートの活用

須波小版 道徳科「主題・教材解釈シート」

1

本日の内容項目《 相手のことを考えて 》 【A・~~B~~・C・D】（○で囲む）

A：主として自分自身に関すること

B：主として人との関わりに関すること

C：主として集団や社会との関わりに関すること

D：主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

本日の主題名《 広く受け入れる心 》

【1】主題解釈：この主題を学ぶ意義を捉えよう。

(1) まず「内容項目」について、自分自身の捉えを書き出してみましょう。

		自分なりに考えて（自己理解）	他の先生方と話して（他者理解）
価値理解	① この内容項目の 大切さ ※それはなぜ大切な でしょう	- 自分以外の他者と分かり合うことで人間関係が広がり、自分自身が成長できる。 - より広い考えや視野を持つことができる。	この社会で誰とも関わることなく生きていくことは不可能。他者と協働して生きていく。ものの考え方や捉え方はそれぞれ。ともに生きていくためには、他者のことを考えた言動をとることは大事。
人間理解（誰にでもある弱さ）	② この内容項目の 難しさ ※いつでもできますか。誰に対してもできますか。	- 自分と全く考えがちがう人のことを理解するのは難しい。 - 自分にとって不都合なとき（気分、立場）は難しい。	- 他者のことを考える心の余裕がないときがある。 - 自分がつらいときやどうしても考え方が合わないとき、相手のことを考えて行動できない。
人間理解（弱さを 越えてよりよく生 きようとする強 さ）深まった価値 理解（新たな気づ き）	③ それでもなおの大切 さ ※難しさを越えて大切 にしたいのはなぜで しょう。	全く考えがちがう人でも、自分の立場や気分が良くないときでも、やはり、相手の思いを考えたり、相手の失敗を許したりすることが、人間関係を豊かにし、自分自身成長することができる。	考え方や捉え方が違う人に対しても「歩み寄ろう」「理解しよう」とすることは大切。相手もきっとこちらを理解しようとしてくれる。共に生きていくためには、相手を理解し受け入れていくことは大切。

(2) 学習指導要領を見てみましょう。

④学習指導要領の該当ページに書かれている「大切さ」や「難しさ」、「指導の要点」など。
自分の考えや意見を相手に伝えるときに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めしていくことができる。 自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さを持っている。 いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが重要。

(3) 「本日の主題」に焦点化して考えてみましょう。

⑤本日の主題はなぜ、児童生徒にとって大切なのだと思いますか。
自分と異なる考えや意見を持っている人と関わることで、自らを高めしていくことができる。 自分と異なる考えや意見を持っている人の意見を受け入れることで、目標を達成することができる。
⑥ ⑤に照らして、本学級の児童生徒は、どのような実態にありますか。（できているところ、まだのところ）
自分と思いが違っても、友達の気持ちを考えて友達の考えを優先させることができる。 全員で協力して考えをまとめようすることができる。 自分の考えと違う友達に対して、自分の考えを押し通そうとすることがある。

1 枚目

この内容項目の大切さは？

この内容項目の難しさは？

それでもなお大切にしたいのはなぜ？

一人の人間として、「内容項目」「主題」と向き合う



学習指導要領で確認する

学習指導要領ではどう書かれている？

指導の要点は？

本時の「主題」は、なぜ児童・生徒にとって大切なもの？

「主題」に対して本学級の児童・生徒の実態は？

「主題」に焦点化して考える



教材へ



2枚目

どんな指導の方法で授業するか、考えましょう。まず「教材」を見てみましょう。

2

【2】：教材のどこを用いて授業を作るのか、考えよう。

本日の教材名《ブランコ乗りとピエロ》 小・中 第《6》学年 出版社・教科書名《日本文教出版》

⑦登場人物の役割を捉えよう（主題に照らして）

※主人公はどんなことに悩んでいますか。また他の人物は主人公にとってどのような位置にいますか。

【主人公（ピエロ）】団員たちをまとめるリーダー。入団早々からスター気取りで、言うことを真面目に聞こうとせず、一人で目立って時間を延ばしていたサムに、いつも腹を立てていた。

【サム】入団早々からスター気取りで、言うことを真面目に聞こうとしなかった。また、一人で目立って、時間を延ばしていた。

⑧主人公の悩み・葛藤・迷いなどの「難しさ」の部分はどこでしょうか。また、「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったりする部分はどこでしょうか。

ブランコから引きずり降りたばかりで、目立ちたかった。自分だけがスターになりたい。

↓

力の限り演じたようすで、あらく息をしていたサムを見た。ピエロの曲芸はいつも以上に力が入っていた。

↓

「私の心の中から、なぜかサムをにくむ気持ちが、消えてしまったのだ。」

「これから私は、サムを手本に努力していくつもりだ。このサーカス団をもっとよくするために、君にも協力してほしい。力を合わせてがんばろう。」

【3】授業のねらいとゴールの姿、それを導く発問と板書を考えよう。

⑨ねらい：「〇〇する活動を通して、～～しようとする道徳的な判断力（道徳的心情、実践意欲と態度）を高める」	ねらい：「サムを憎む気持ちが消え、穏やかにサムを見つめるピエロの気持ちの変容について考えることを通して、自分と異なる考えや意見を尊重し、大切にしていこうとする態度を養う。」
⑩ゴールの姿：⑨のねらいが達成されたとして、授業の最後には、例えばどのような言葉が児童生徒から出てくるとよいでしょう。複数考えてみましょう。	「相手と意見が食い違ったときは、一度自分の考えを見直す」とよい。 「自分と違う相手の考えも認めることが大切。」 「自分たちの目標は何かを考え、それに向かって話し合うとよい。」 「これからは相手の考えのよいところや納得できるところを見つけていきたい。」
⑪そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「悩みや葛藤など」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。	「演技をやめようとするサムを見上げていたピエロは、どんなことを考えていたのでしょうか。」 発言後、「そういう気持ち、分かるねえ」と共感を入れると、子どもは安心する。
⑫そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったり」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。	「ピエロの手をゆっくり取り、固く握手を交わしたサムは、どんな思いだったのでしょうか。」 発言後、「なるほど、そういう考え方が大切なんだね」と共感すると、子どもは今後の生き方にしっかり見通しを持つ。

※上記をもとに、思考を促す発問計画、板書計画を作成していきましょう！

（令和4（2022）年度改訂版 宮里智恵作成を参照）

(2) 45 分間の授業の組み立て

- ① 導入場面は、5分以内で
- ② 教材での発問は2～3問にしぼる
- ③ 友達の発言を書きとめる活動を取り入れる
- ④ まとめは、子どものことばで
- ⑤ 「今日の振り返り」の時間の確保

- ① 導入場面は、5分以内に終わる。

教材のみで終わらないためにも、導入には時間をかけない。

- ② 教材での発問は、2～3問にしぼる。

物語のあらすじを順に追う発問はしない。児童はだんだん下を向く（教科書から探す）ようになる。主体的な姿は見られない。

- ③ 友達の発言を書き留める活動を取り入れる。

自分もっている価値観とは違う「考え」に触れさせる。「あっそういう考え方もあるんだ。」
「こんな考え方っていいな。」→今では、指導者が声をかけなくても主体的に書き留める場面が多くみられる。

- ④ まとめは、児童・生徒のことばを使って行う。

児童・生徒と本時の主題に向かって話し合う中で、児童・生徒から出てきた発言を「キーワード」として板書し、まとめに向かう。

- ⑤ 「振り返り」は、教材の話、教師の説話など全ての学習の振り返りとして、授業の最後に行う。

まずは、一人一人自己の「内面」を見つめ、その後、全体交流を行う。そのためにも授業終了8分前には「振り返り」活動に入る。中学校では10分前には入ることを目標に行う。

メモ

(3) 実践例

○第6学年「団地と子犬」主題名「よりよいきまり」内容項目「C規則の尊重」

ねらい

規則は、そのことに関わる人々が幸せに生活できるようにという願いを込めて人が作ったものであることを理解し、その一員としての自覚と責任をもって、進んで守ろうとする態度を養う。

導入場面

発問『規則』と聞いて、どんな言葉を連想しますか。」

児童「学校」「守る」「やぶったらだめ」…



教材文範読



発問「規則は守るべきでしょ。だったら、子犬は飼ってはいけないでしょ。」

児童「動物も生きているのに人は動物を捨てるのか。不公平だ。」

「目が見えない子犬は手助けをしてあげるべきだ。」

「この子犬は自分では生きていくことができない。助けるべきだ。」

繰り返し発問

「でもみんなは、さっき（導入場面）、『きまりは絶対だ。』『きまりはやぶったらダメ。』と言ってたよね。だったら、飼うことはできないでしょ。」

児童『きまり』と『子犬の命』とどちらが大切なんですか。子犬の命でしょう。」

「先生、この団地でペットは飼ってはいけないというきまりは、ペットショップで売っている犬や猫のことで、この子犬はペットショップの犬とは違うんです。守らなければいけないんです。」

教師「そうか。命を見捨ててまで規則を守るべきではないんだね。『規則』＝「絶対に守らなければならない」ではないんだ。『守るべき』だが、そこには大事な何かがある。それを忘れたらだめなんだね。」

「団地の役員さんたちも団地の人たちもみんなのように『規則』について色々な考えを出し合って話し合い、子犬を飼うことを認めただね。」



「規則は守らなければいけない」という他律的な考え方ではなく、よりよい社会をつくるために自分たちがつくるという自律的な自覚へ。

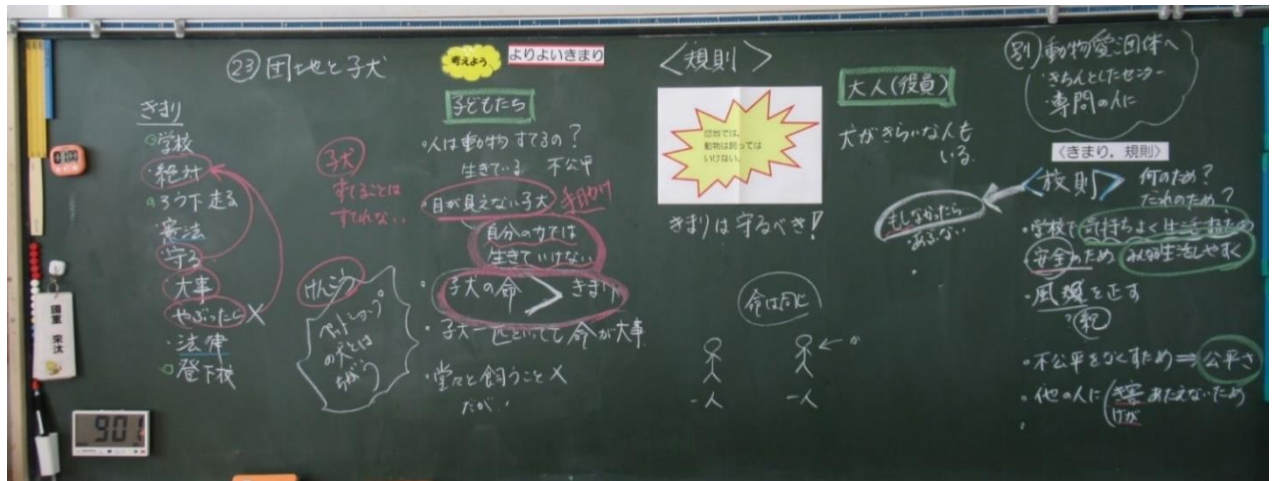
発問「みんなが今取り組んでいる『校則の見直し』についてはどうだろう。」

「何のために。誰のために『校則』はあるのかな。」



「自分ごと」として考えさせる。

発問「よりよいきまりにするためには、どんなことを大切にしていこうといいでしょう。」



○第4学年「ヒキガエルとロバ」主題名「全ての命を大切に」内容項目「D 生命の尊さ」

ねらい

ヒキガエルをいじめることを楽しんでいたアドルフたちの反省を通して、すべての生き物の命を大切にしようとする態度を養う。

(展開後半)

発問「ヒキガエルとロバの姿をいつまでも眺めている子どもたちは、どんな思いで立っているでしょう。」

児童「ロバはヒキガエルの気持ちがあったんだ。僕たちよりやさしい。」

「ヒキガエルの気持ちを考えなかった。ごめん。」

「ヒキガエルにも命がある。」「ヒキガエルも生きている。」

「今度から命を大切にしよう。」…

教師・・・児童の発言を「ロバへの思い」「自分たちがした行為への思い(反省)」「命に目を向けた思い」に分類・整理し板書→児童と確認

児童の発言「命を大切にしよう」を深く考えさせるための繰り返し発問

繰り返し発問

「みんな『命を大切にしよう』と言ったけれど、先生は蚊が来たらたたくよ。豚肉や鳥肉も食べるよ。これってどうなんだろうね。」→グループで話し合い活動へ



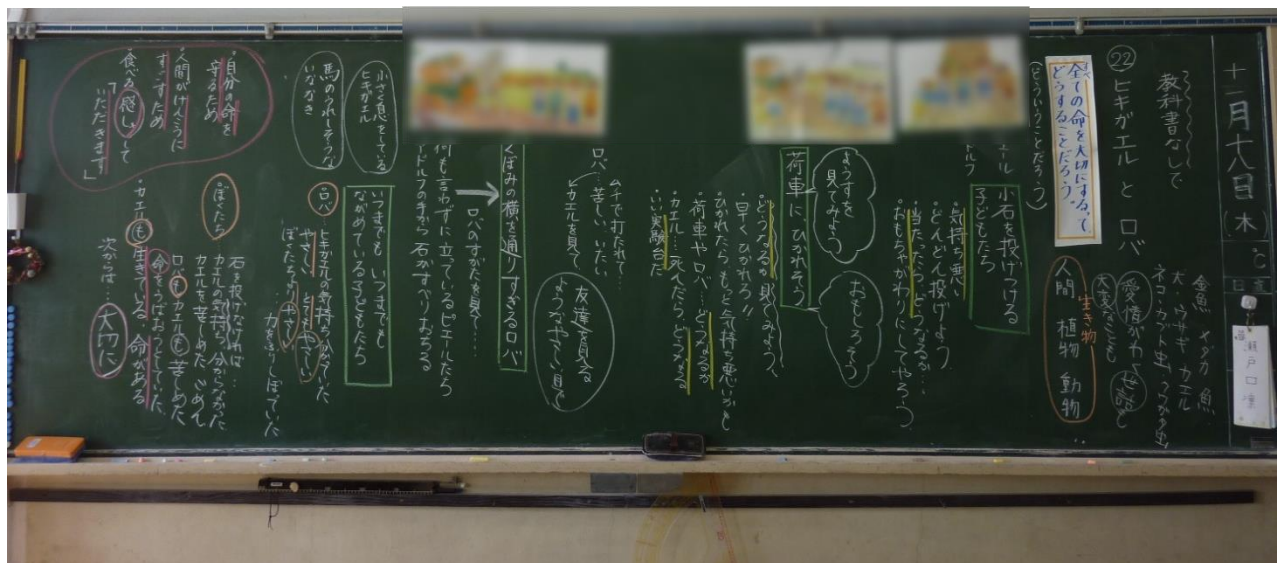
児童「むやみに殺したりしてはいけないが、自分たちの健康や命が危ないと思う時は、仕方がない。」

「人間が健康に過ごすためや生きるために動物や植物の命をもらったりすることもある。」

「給食を食べる前に『いただきます』をするでしょう。それは、『命をいただきます』という意味だと思う。」



本時のめあて「命を大切にするととは、どういうことだろう。」について、まとめへ。



メモ

2 カリキュラム・マネジメントの取り組み

(1) 道徳科学習プログラムの作成

○令和3年度

- ・広島県の道徳教育研修ハンドブックを参考に作成。
- ・プログラムのめあてを設定し、児童の意識の流れを考える。
- ・各教科領域や体験活動、家庭とのつながりを考える。
- ・「道徳科学習プログラム」を年間一本作成し、実践した。
- ・3月末に全教科、特別活動等と道徳科の関連の見直し（シラバス）

各教科の学習内容や行事と道徳科の学習を「つなぐ」→教育的効果をも高めるため

令和3年度 年間学習計画		第5学年		三原市立須波小学校	
学校教育目標		めざす子どもの姿		よい習慣を身につけるために	
「夢と高い志を抱き、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」 【めざす子どもの資質能力】 ○課題発見・解決能力 ○コミュニケーション能力 ○主体性 ○自己理解		○課題を発見し、解決する子ども ○伝え合い、認め合い、協力し合う子ども ○意欲をもって、行動する子ども ○自分を、ふりかえり、生かす子ども		○基本的な生活習慣 ・早起きなど規則正しい生活を送りましょう。 ・誰にでも通ずる挨拶をしましょう。 ・テレビやゲームは、決断やルールを決めましょう。 ○読書のすすめ ・毎日読書（15分）をしましょう。	
外国語	英語	国語	算数	理科	社会
道徳	総合	体育	音楽	美術	家庭科
特別活動	部活動	その他	その他	その他	その他
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36
37	38	39	40	41	42
43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54
55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66
67	68	69	70	71	72
73	74	75	76	77	78
79	80	81	82	83	84
85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96
97	98	99	100	101	102
103	104	105	106	107	108
109	110	111	112	113	114
115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126
127	128	129	130	131	132
133	134	135	136	137	138
139	140	141	142	143	144
145	146	147	148	149	150
151	152	153	154	155	156
157	158	159	160	161	162
163	164	165	166	167	168
169	170	171	172	173	174
175	176	177	178	179	180
181	182	183	184	185	186
187	188	189	190	191	192
193	194	195	196	197	198
199	200	201	202	203	204
205	206	207	208	209	210
211	212	213	214	215	216
217	218	219	220	221	222
223	224	225	226	227	228
229	230	231	232	233	234
235	236	237	238	239	240
241	242	243	244	245	246
247	248	249	250	251	252
253	254	255	256	257	258
259	260	261	262	263	264
265	266	267	268	269	270
271	272	273	274	275	276
277	278	279	280	281	282
283	284	285	286	287	288
289	290	291	292	293	294
295	296	297	298	299	300

○令和4年度

- ・新担任が昨年度末のシラバスをもとに、児童の実態を把握し作成する。（各学期1本）

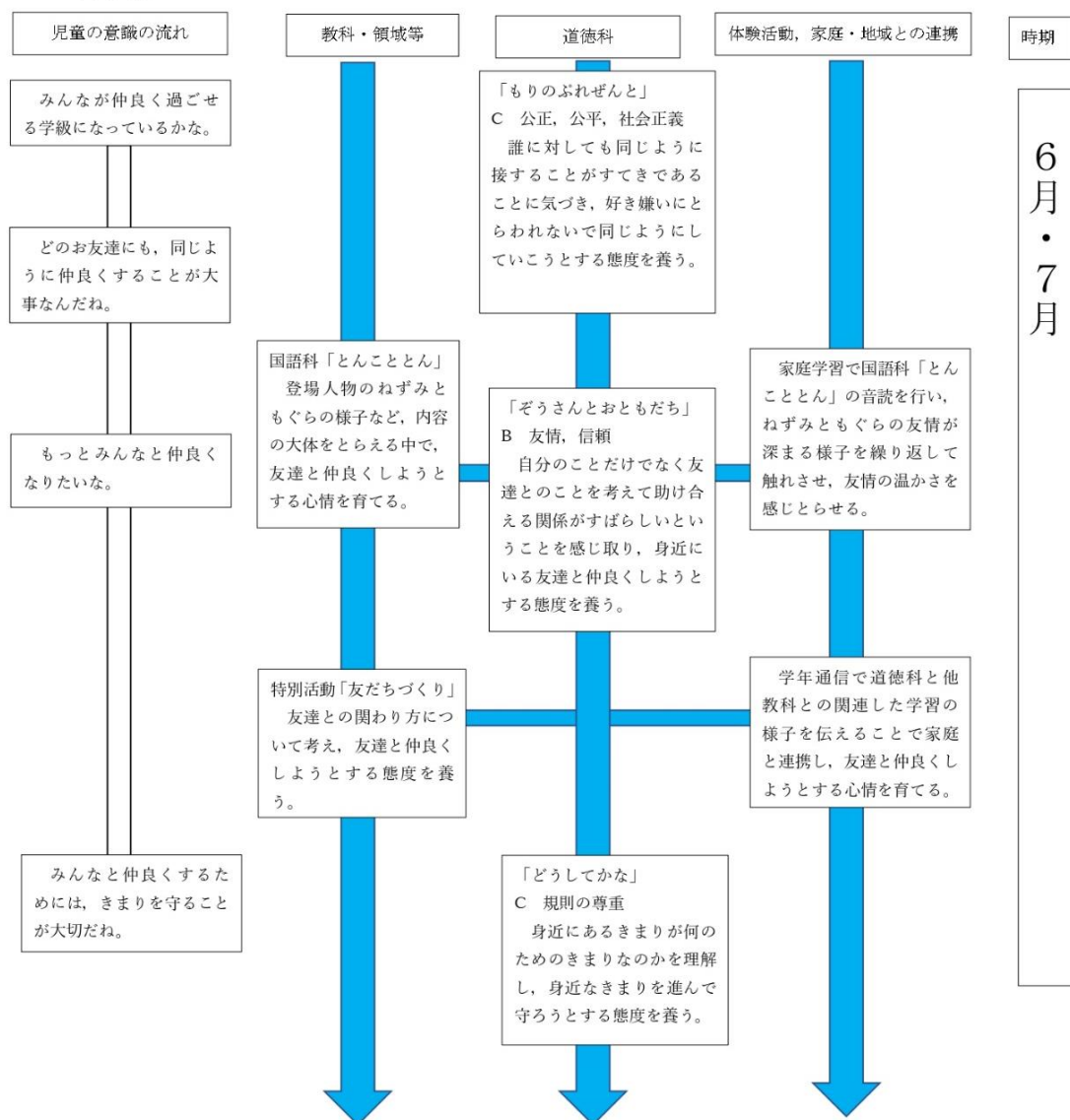
より行動につなげる取組を意識して作成。



第1学年 道徳科学習プログラム（1学期）
みんなが仲良く過ごせる学級になろう

ねらい 自分の好き嫌いにとらわれないで、友達と仲良くし、約束やきまりを守って助け合おうとする態度を養う。

学習過程



友達と仲良くなろう！！

約束やきまりを守って

助け合って



※参考資料に入っています。

（２）教職員の意識の変化

○教職員同士の声かけ

もうすぐ「クリーン活動」があるから、次の道徳科の授業は、「〇〇」をしようと思う。

→職員室での会話から全学級の担任が「そうだね。」「私も…。」

6月のクリーン活動に向かって

○第1学年「あとかたづけ」（内容項目：A 節度、節制）

○第2学年「お兄ちゃんの電話」（内容項目：B 礼儀）

○第3・4学年「ぼくの草取り体験」（内容項目：C 勤労、公共の精神）

○第5学年「サタデーグループ」（内容項目：C 勤労、公共の精神）

○第6学年「自分にできること」（内容項目：C 勤労、公共の精神）

1年生

片付けまで意識して活動させたい。

内容項目：A 節度、節制

2年生

年上の人と活動するので、礼儀正しい言葉使いや挨拶を意識して活動させたい。

内容項目：B 礼儀

「C：勤労、公共の精神」の内容項目のない第1学年、第2学年は、クリーン活動で児童に身に着けさせたい力や、考えさせたい内容から教材を決定した。



○他の教科，特別活動，キャリア教育等とつなぐ

- ・全学年 クリーン活動に関わって

グリーン活動(1回目) がんばりカード

名前 ()

○目標

○クリーン活動(1回目) を ふりかえろう

① がんばったことは 何ですか。

② 楽しかったことや うれしかったことは 何ですか。

③これから学校生活でどのように生かしていこうと思いますか。



・第6学年

総合的な学習の活動「三原の伝統的な行事や建造物について調べよう。」

校外学習前に道德科の学習を取り入れる。

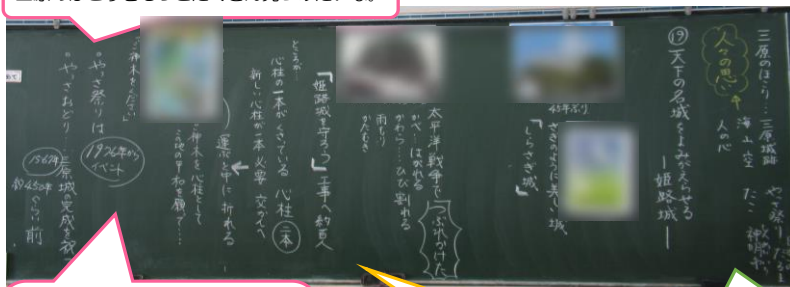
道德科「天下の名城をよみがえらせる―姫路城―」

(内容項目：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)

ほこりある郷土

「天下の名城をよみがえらせる―姫路城―」

三原のほこりをもっとたくさん見つけたいな。



三原のほこりって、「物」だけでなく、それらを守ろうとしている「人々の思い」もあるのかもしれない。

姫路城を守ろうと努力している人がたくさんいるんだな

三原のほこりって何かな？



三原市役所文化課の山崎先生に、三原城跡を案内してもらいました！



姫路城の修復工事に携わった人々の思いや、郷土の伝統文化を大切に守り続けることへの思いを考える。

↓
三原市の伝統文化を守り続ける人の思いは？

↓
校外学習へ意識をつなげる。

<みんなの感想>

- 三原城に有名な歴史上の人物が来たなんてすごい。
- 今までただの石垣跡だと思っていたけど、実はたくさんの歴史があると分かり、三原にとって大切な物だと思うようになった。
- 総合的な学習の時間で、三原城跡などの三原のじまを地域へ発信し、より三原にしたい。



・第2学年

昨年度（1年生）数名の児童が休憩時間に自主的に掃除を始めた。

「だってね、道徳で『あとかたづけ』の勉強をして、みんなが使うところがきれいになったら気持ちがいいかなあと思ったの…。」と。2年生になった今も、時々自分たちで掃除を続けている。



「悩み」「やってみようと思う」



「アイディアを出し合う」「私も〇〇しよう」「ゲストティーチャーに〇〇な人がおられるよ」
「〇〇な活動をしたことがあるよ」



取組へ

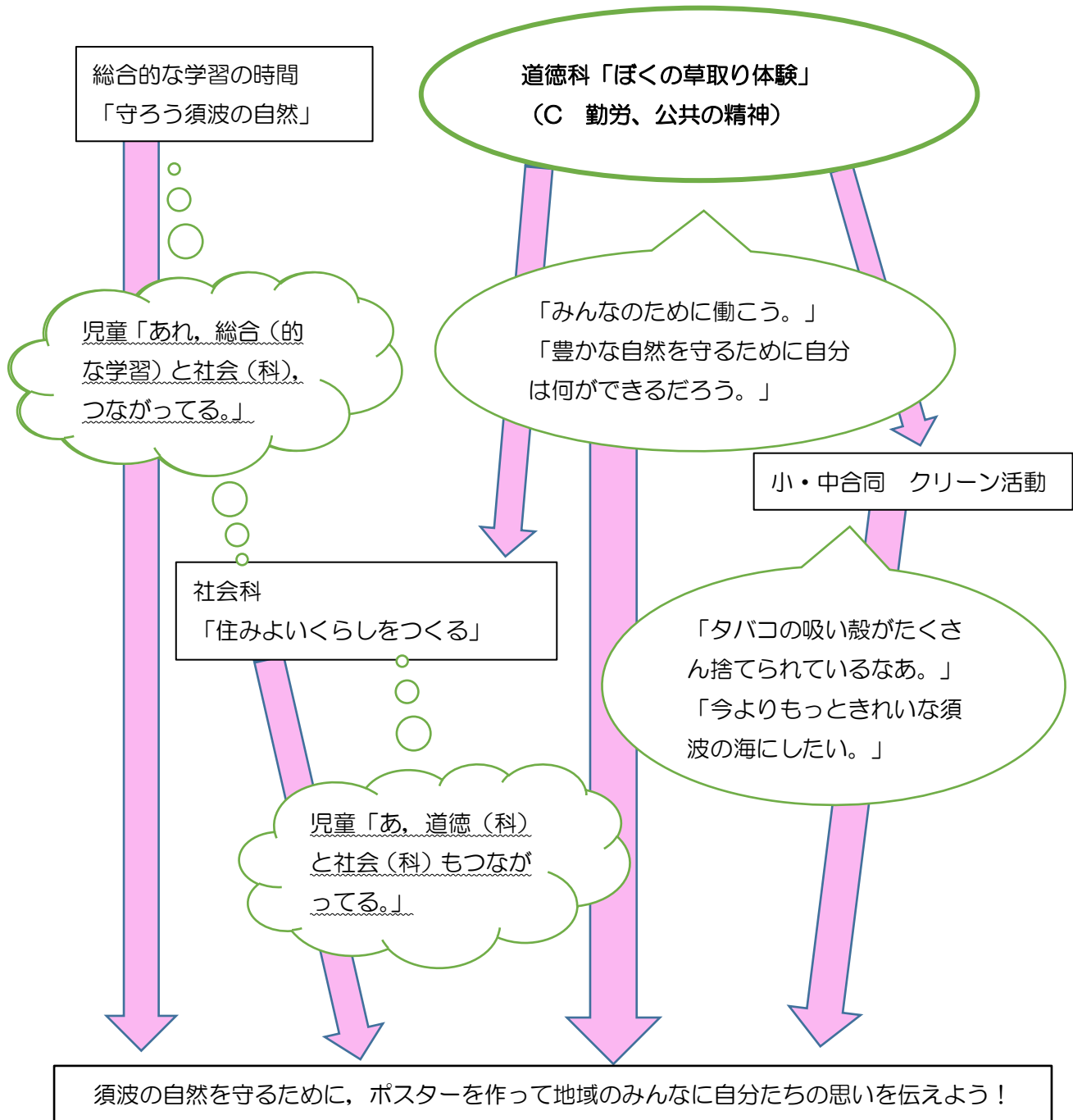
教職員同士が自分の思いや考えを声に出すことで充実した取組へ。

教職員が、様々な学習、行事等をカリキュラム・マネジメントの視点で考えるようになってきた。

(3) 児童の意識の変化

教職員の意識の変化→児童の意識の変化へ

○第3・4学年



○第1学年

キーワード「みんなが いい気持ち」

- ・国語科「大きなかぶ」

教材文…「あまい、あまい とてつもなく大きいかぶが できました。」…

担任「おいしい、おいしい、大きなかぶができたんだね。おじいさんとおばあさんは、どんな気持ちだったかな。」

児童「やったあ。」「うれしいなあ。」「早く食べたいな。」

児童「食べきれないから、みんなに分けてあげよう。」

児童「あ、そうすると、みんなが『いい気持ち』になるね。」

児童「あっ、『道徳』だ！」



(4) ゲストティーチャーの招聘

第5学年 道徳科「和太鼓調べ」

(内容項目：C 伝統文化の尊重、国や郷土を愛する態度)

○「須波っ子太鼓」の講師，原田嘉子先生を招聘。



総合的な学習の時間に須波小学校の伝統である「須波っ子太鼓」を第5学年，第6学年で行っている。その「須波っ子太鼓」をご指導いただいている「原田嘉子先生」は、「須波っ子太鼓」の作者。長年須波小学校の太鼓の指導をしてくださっている原田先生をゲストティーチャーとして招聘し，太鼓演奏に携わってきた思いや，太鼓演奏をする児童への思いや願いを語っていただいた。



【児童の感想】

原田先生は，魂を込めた演奏をしているということが，伝わってきました。私も，みんなの心に伝わるような演奏がしたいです。

【児童の感想】

私は，須波っ子太鼓のイントロは，神様をよぶという意味が分かりました。もっと太鼓のことを知りたいと思いました。太鼓をたたく時は，楽しく笑顔でやろうと思いました。もっと太鼓を上手になって，須波の人に演奏をきいてもらいたいし，須波小のみんなに受けついでいきたいと思いました。

【児童の感想】

ぼくも，演奏する時は，命がけで演奏したいし，低学年の人に引きついでもらえるような演奏をしたいと思った。

第3・4学年 道徳科「海をこえて」

(内容項目：C 国際理解、国際親善)

○カナダから一時帰国して体験入学中の児童の保護者を招聘



カナダから一時帰国して体験入学中の児童の保護者を招聘し、日本とカナダの文化の共通点や違い、日本を離れたからこそ見えてきた日本文化の素晴らしさ等について話していただいた。

・第2学年

道徳科「わたしたちの校歌」(内容項目：C よりよい学校生活、集団生活の充実)

「須波小学校の『校歌』について、どんな願いが込められているのか、伝えてもらいたい。」という担任の思い。→ 本校の教職員で須波小学校の卒業生である教諭をゲストティーチャーに。



50年以上も前に卒業したけれど、同窓会でみんなで一緒に歌う歌があるんだよ。

須波小の校歌の歌詞の中には、須波の素晴らしさが、たくさん書かれているよ。例えば…。



最後の歌詞は…
この須波小で、みんなですくすく成長してね、という思いが込められているよ。

【今後のゲストティーチャー招聘の予定】

○第1学年 「120てんの そうじ」

主題名「みんなの ために」内容項目「C：勤労，公共の精神」

来客前などに玄関や階段を自主的に掃除している6年生が，その思いを1年生に語る。

○第3・4学年 総合的な学習の時間と道徳科の学習

2学期に見学に行った，須波の名産の「わけぎ栽培」に取り組んでおられる方から，地元への思いや自分たちに「わけぎ栽培」を教えて下さる思いについて話していただく。

○第6学年 「ぼくたちの学校」

主題名「学校を愛する心」内容項目「C:よりよい学校生活，集団生活の充実」

須波小学校の卒業生で地元に住んでおられる方に，学校への思いを話していただく。

メモ

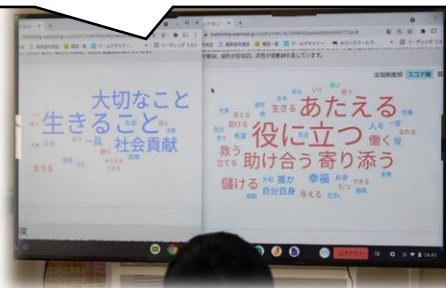
3 ICT 機器の活用

○児童一人一人の考えを表現し、全体で共有する

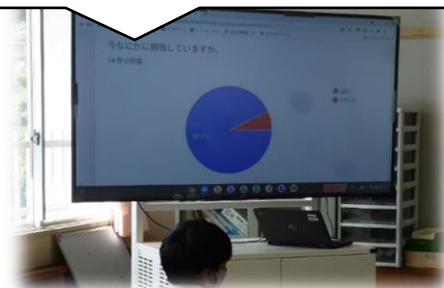
昨年度、三原市の ICT 支援員の協力で「心情メーター」を作成。従来、画用紙と色紙で作成していたハートのものさしをクロームブック上で行う。テレビ画面にクラス全員の「ハートの物差し」が提示され、お互いの考えを共有し合える。



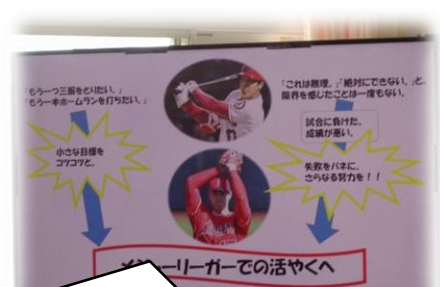
AI テキストマイニングを活用して、児童・生徒の考えを集約し、共有する。



本時の価値に対するアンケートをフォームで行い、クラスの実態を把握する。



場面の状況を把握するために場面絵とキーワードとなる言葉を提示する。



本時の価値について、視野を広げるために児童になじみのある人物を提示する。

その他に…

○指導者用デジタル教材の活用

- ・場面絵のアニメーションを活用することで、教材の理解を深めたり、教材の世界に入り込めたりできる。
- ・教材文の登場人物からのメッセージを提示し、本時の価値をあたためる。

留意点…

○どの場面で、何のために ICT 機器を活用するのかを明確にして使う。

4 第四中学校との連携

○道徳教育に関わって

- ・校内研修への参加（小学校⇄中学校）、学びの共有
- ・指導案作成に関わって「主題・教材解釈シート」の活用等の共有
- ・意識調査から児童・生徒の実態の把握の共有

○道徳科の授業で

- ・第5学年 「森の絵」

主題名「集団の一員として」内容項目「C:よりよい学校生活，集団生活の充実」

第四中学校の3年生の生徒に、「集団の中の自分の役割」についてアドバイスをもらう。

令和4年度道徳教育推進拠点地域事業に係る児童生徒等の意識調査報告書より
(道徳科の授業に関する項目の肯定的評価)

① 道徳科の授業に関わって（質問項目1～5）

番号	質 問 項 目	4 月 (%)	1 2 月 (%)
1	道徳科の勉強はすきだ	59	69
2	道徳科の勉強はためになると思う	90	89
3	道徳科の授業では，自分の事を振り返りながら考えている	77	83
4	道徳科の授業では，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしている	79	83
5	道徳科の授業で勉強したことを，自分の生活にいかしている	67	80

○生徒は，道徳科の勉強は，自分自身のためになっていると感じている。

○生徒は，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり広げたりして学習していると感じている。

○生徒は，道徳科の授業で，自分の事を振り返りながら考え，勉強したことを自分の生活にいかしていると感じている。

→今後も，生徒自身が自分自身を振り返って考えたり，自分の生活にいかそうと考えたりできる授業作りを行う。

【ある授業後のエピソード】

生徒「お前だったらどう？」「俺だったら，…。」

生徒「もし，俺だったら…。」

生徒同士または生徒と先生で，主題について会話している光景を時々見ます。

生徒にとって「考え，議論する」道徳はまだ続いている。

② 自己肯定感に関わって

番号	質 問 項 目	4 月 (%)	1 2 月 (%)
7	自分にはよいところがあると思う	72	86
8	自分のよさが、まわりの人からみとめられていると思う	66	91
9	将来の夢や目標をもっている	67	83
10	将来の夢や目標に向かって努力している	69	80

○学校全体としては、生徒の自己肯定感は上がってきている。引き続き、取組を進めていく。

○コロナ禍前の連携の例

- ・クリーン活動（今年度は1学期に合同で行う。）
- ・「出前授業」・・・中学3年生が6年生に、中学校の学習や生活について紹介する。
（今年度はリモートで行う。）
- ・小学校の体育科や外国語の授業で、中学校の先生が授業を行う。
- ・小学校の学習発表会に中学校の吹奏楽部が出演する。



9年間を通して、児童・生徒の育成を図る。

IV 研究の検証

令和4年度道徳教育推進拠点地域事業に係る児童生徒等の意識調査報告書より (道徳科の授業に関する項目の肯定的評価)

○令和3年度 重点項目

道徳アンケート 令和3年度 重点4項目

- 3「道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている」
- 9「将来の夢や目標をもっている」
- 13「相手のことを思いやり、親切にしている」
- 23「あなたをよくわかってくれる先生がいる」

- ・肯定的評価が上がった・・・「13」「23」
- ・肯定的評価が下がった・・・「3」「9」

○令和4年度 重点項目

道徳アンケート 令和4年度 重点4項目

- 3「道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている」
- 5「道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている」
- 7「自分にはよいところがあると思う」
- 9「将来の夢や目標をもっている」

本校児童の課題

自己肯定感が低い

① 道徳科の授業に関わって（質問項目1～5）

番号	質 問 項 目	4 月 (%)	7 月 (%)	1 2 月 (%)	昨年度 12 月 (%)
1	道徳科の勉強はすきだ	83	86	88	80
2	道徳科の勉強はためになると思う	95	96	96	97
3 重点	道徳科の授業では、自分の事を振り返りながら考えている	88	88	89	85
4	道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている	84	93	96	88
5 重点	道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	88	91	88	85

- 友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりして学習する道徳科の学習は好き。
- 道徳科の勉強は、自分自身のためになっていると感じている。
- 道徳科の授業に関わる項目は、肯定的評価で定着している。
 - ・一定の水準を保った授業が行われている。
 - ・組織的な取組が出来ている。

② 自己肯定感に関わって

番号	質 問 項 目	4 月 (%)	7 月 (%)	1 2 月 (%)	昨年度 12 月 (%)
7 重点	自分にはよいところがあると思う	75	74	80	77
8	自分のよさが, まわりの人からみとめられていると思う	73	70	79	72
9 重点	将来の夢や目標をもっている	84	82	89	80
10	将来の夢や目標に向かって努力している	84	81	86	76

○1 学期の道徳アンケートの考察から「自己肯定感が低い児童が多い」

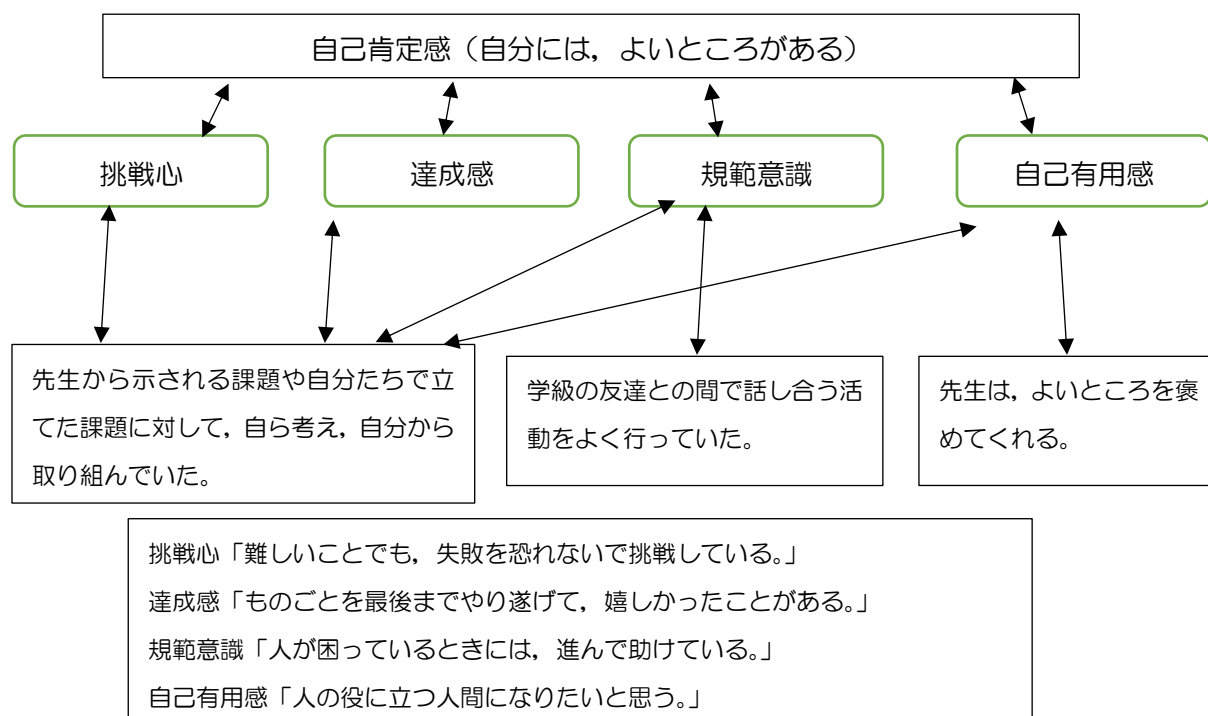
夏季研修→2 学期の取組へ

「自己肯定感を高める取組を行う」→成果が表れた。

○今後も, 児童一人一人が自信を持って生き生きと活動できるよう, 取組を進めていく。

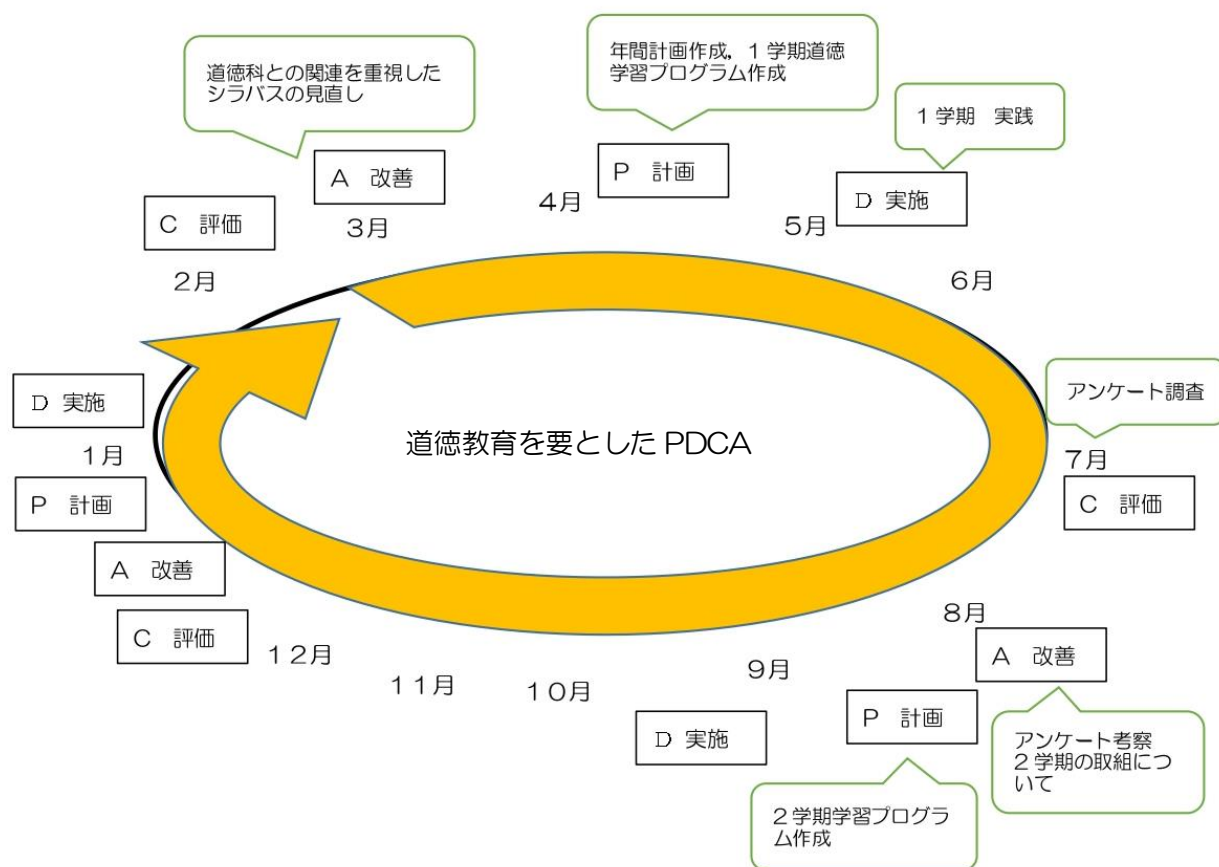
○夏季休業中研修資料

自己肯定感に関する分析結果



(文部科学省 第112回「中央教育審議会」配布資料より)

③PDCA サイクルで



昨年度末に見直したシラバスをもとに、カリキュラム・マネジメントの見直し作業を（A）改善→今年度の年間計画の作成，学習プログラムの作成を（P）計画→1 学期の実践を（D）実施→7 月のアンケート調査による実態の把握，課題の共有を（C）評価→2 学期へ向けての学習プログラムの作成，改善を（A）→…と，PDCA サイクルを意識した取り組みを行う。

年度末には来年度に向けて，PDCA サイクルを何度も回して，学習プログラムを児童生徒にあったより良いものに改善し続けていく。



V 成果と今後の課題

【道徳科の授業】

○「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図る取組については、一定の成果が表れた。

○児童の主体的な姿や自分事としてしっかりと考える姿がみられるようになってきた。

例・・・○展開後半で、主人公の心情の変化を「心情曲線」で担任が表そうとすると、黒板に出てきて自分でチョークを使って表現しだした4年生。続けて、「私は少しだけ違うよ。」と別の児童も自分の考えをチョークで描いた。



○グループでの話し合い場面で、自分の思いを伝えようと黒板に行き、場面絵やキーワードとなる言葉を指し示しながら話す6年生。
○振り返りの場面で、自分のことを涙を流しながら語る5年生。

【国語科の学習で】

1年生の国語科の単元「好きな教科はなあに」の学習では、「好きな教科 道徳」「わけは心の勉強は、大切なことも知ることができるし、今まで分からなかったことも分かります。」と道徳科への思いを書いた児童。道徳科の時間が充実した時間だと実感しているようだ。

▲「議論する」時間の確保

- ・児童がしっかりと主題や内容項目に向き合って考える時間の確保をする。そのためにも、教材研究を行い、発問の精選、繰り返し発問の準備等の取組を行う。

▲「行動」ではなく、「心」を考える

- ・45分間の授業で「行動させる」「活動させる」ことに重点がおかれることがあった。終末の発問も「これからどうしていきたいですか。」と、行動について問う発問を行うこ



とがあった。「行動」を問うのではなく、「どうしてそう思うのか。」「どうしてそれが大切だと思うのか。」について考えさせる必要がある。高学年、中学生については、「そういう生き方ってどうして大切なの。」等、価値そのものを問う発問もしていく。行動そのものではなく、それを支える「心」について、児童の考え方を広げ、深めることに留意していく必要がある。

【カリキュラム・マネジメントの取組】

- 教職員がカリキュラム・マネジメントの意識で取組を進めることで、児童の意識に変化が出てきた。
- 「道徳科」「特別活動」などがそれぞれ単独ではなく、その学びをつなげることで、教育的効果が高まった。
- ▲各担任が児童の実態を把握して「道徳科学習プログラム」を作成したが、その取組の最終目標は「学校教育目標」であり、「学校教育目標」の達成に向かって取組むという共通認識が必要であった。

学校教育目標

夢と高い志を抱き、自ら学び、
心豊かに、たくましく生きる児童の育成

◎めざす児童像

- 課題を発見し、解決する子ども
- 伝え合い、認め合い、協力し合う子ども
- 意欲をもって、行動する子ども
- 自分を、ふりかえり、生かす子ども

キーワード「つなぐ」

- 「児童・生徒と教材をつなぐ」「児童・生徒同士をつなぐ」「教師と教師をつなぐ」「教材と自分たちの生活をつなぐ」「他の教科、他領域の活動や行事と道徳をつなぐ」「この2年間の取組を次年度へつなぐ」…。
- 今後より一層、様々な「つなぐ」を意識して取組を続け、児童・生徒の「今を、未来をよりよく生きる力」の育成を図っていきたい。